

子どものホルモンの病気をご存じですか？

医学部准教授（小児科学教室）^{はせがわ}長谷川 ^{とも のぶ}奉延

子どものホルモンの病気をご存じですか？子どものホルモンの病気は、ホルモンのバランスが崩れることが原因で起こる子どもの病気“です。今日は子どものホルモンの病気についてお話しします。

ところで、ホルモンとは何でしょうか？改めてホルモンとは何か、と聞かれると答えに窮する方もいらっしゃるかもしれません。ホルモンとは、ヒトの元気をつかさどる、血液の中を流れている物質“です。ヒトの血液の中には100種類以上のホルモンが流れています。子どもが元気に成長し、発達し、成熟するためには血液を流れているすべてのホルモンが体のあちこちでバランスよく働いてくれる必要があるのです。100種類以上のホルモンがあるということは、逆に言うと数えきれないくらい多くの子どものホルモン

の病気があるということにもなります。

さて、どんな症状があったら子どものホルモンの病気の可能性があるのでしょうか？たとえば、身長が低い、身長が高すぎる、太ってしまった、体重が減った、思春期が来るのが早い、なかなか思春期が来ない、心臓がドキドキする、最近疲れやすい、外陰部の形がまわりの子どもたちと違うような気がする、新生児が全員受ける検査で甲状腺の病気かもしれないと言われた、けいれんしてしまったが原因がよくわからないと言われた、何回も骨折してしまった、などなどです。「えっ!?!それって本当にホルモンの病気？」という症状もあつたかもしれません、実はどのホルモンのバランスが崩れるかによってありとあらゆる症状が起こりうるのです。

では、子どものホルモンの病

気かもしれないと思ったらどうしたらよいでしょうか？あるいはかかりつけ医の先生から「ホルモンの病気です」と言われたらどうしたらよいでしょうか？子どものホルモンの病気を専門にしている小児科医は決して多くありませんが、ご安心ください。慶應義塾大学病院小児科では、子どものホルモンの病気に関しておそらく国内でもっとも質の高い医療を提供している「専門チーム」が診療しています。医学的に質が高いことはもちろんですが、こころのケアも含めた全人的な医療の提供を心掛けています。お困りの節は気軽にご相談いただければと思います。慶應義塾大学病院小児科の、子どものホルモンの病気を診療する専門チーム“のホームページ <http://pedia.med.keio.ac.jp/about/groups/#tab2>もぜひご覧ください。